

社会科学習指導案

日時 平成22年10月13日(水)
 6教時 14:15~15:00
 児童 余市町立黒川小学校4年1組28名
 授業者 教諭 川本 真央

実践テーマ：「言語活動の充実を目指して」

1. 単元名 「昔のくらしとまちづくり（17時間扱い）」

2. 単元について

昔の道具を調べることを窓口に、余市町の歴史について調査・観察し、そうした具体的な事例から人々の生活の変化や願い、先人の苦心などをとらえることが本単元の学びである。

昔の道具調べは、黒川小学校にある郷土資料室に連れていくことから導入する。ここには、昔の生活道具や仕事の道具が陳列されている。学校の備品であるため、子どもたちが実際に手にとることができることも利点である。これらの道具を観察したり、体験したりするなかで、昔の人のくらしに興味をおこさせたい。

日常生活道具を調べたあと、教科書では、「まちを開く」の学習活動に入るが、子どもたちの思考としてつながりにくい面があると考えた。そこで、本単元では、余市町の特産物である「りんご」づくりの道具の歴史について調べる活動を取り入れた。そのことで、それぞれの家族生活から、町全体の暮らしの変化へと子どもたちの思考が広がるのではないかと考えたためである。

「りんごづくりは病害虫とのたたかひの歴史」という言葉が、りんご農家の格言になるほど、りんごづくりと虫除けは切っても切り離せない関係がある。そのりんごの虫除けの道具の歴史は、大きく3つの段階がある。始まりは「ふくろがけ」である。余市町では、明治30年代から「三角ぶくろがけ」という余市町独自の袋がけの方法が考案され、どの農家でも行うようになった。当時は、農家に「でめんさん」と呼ばれる出稼ぎ労働者が10名ほど泊り込み、朝7時から夜7時まで働きづめで、1ヶ月ほどの作業になったという。それが、昭和初期に、「動力噴霧器」と呼ばれる農薬散布機が導入されて、3、4人で1日という作業へと変化していった。さらには、日米親善第3回派米農業生として全道から選ばれた宮本晋司さんが、カリフォルニアからスピードスプレーヤーを輸入し、今では、1人で2時間の作業となった。機械化によって、劇的に作業が楽になったわけである。一方で、高額な機械を導入する金銭的な問題や、人と人との助け合いが少なくなるなどの問題点もある。そうした問題点は、資料から読み取るよりも、りんご農家さんからお話ししていただいたほうがよいと考え、ゲストティーチャーをお願いすることとした。

りんごの道具の歴史を学んだあと、余市町の古地図を通して、余市町の歴史について学ぶこととした。資料は余市水産博物館さんの学芸員さんに協力していただき、明治・大正・昭和初期の3つの時代の地図を用意した。地図から読み取れる大きな変化は、1つは、海岸沿いに建物が多かったのが内陸部へと人がっていったこと、もう1つは、余市川の流れが埋め立てや護岸工事によって変化していることである。前者は、ニシン漁の衰退に原因があること、後者は、猪俣安造氏の尽力のおかげである。単元の終わりには、それまでの学びのキーワードをもとに、余市町の年表をつくることで、余市の昔のくらしから今に至るまでをまとめる。

3. 児童の実態

中学年になり、子どもたちのなかには、昔のこと（歴史）に興味や関心をもつ度合いが強くなってきている。しかも、観察や作業など、体を動かし体当たりできる学習を好むので、本単元でもこのような活動が組める教材を選んだ。子どもたちは3年生のときに、社会科で「余市町のりんごづくり」を学び、総合学習で「ニシンの町余市」というテーマで調べ活動を行った。そのため、子どもたちにとって「余市町といえばニシンとりんごだ」というイメージがある。特に「余市町のりんごづくり」では、藤田さんというりんご農家さんに、現在のりんごづくりの作業の流れや、りんごづくりの道具についてお話をしていただいていた。そのため、子どもたちは本単元で取りあげる「りんごの道具」のイメージをもっている。

4. 研究の視点との関わり

視点1とのかかわり（問題解決的な学習を効果的に取り入れた単元構成の工夫と単元の評価）

昔の道具を調べることを窓口に、余市町の歴史について調査・観察し、そうした具体的な事例から人々の生活の変化や願い、先人の苦心などをとらえることが本単元の学びである。

日常生活道具を調べたあと、教科書では、「まちを開く」の学習活動に入るが、子どもたちの思考としてつながりにくい面があると考えた。そこで、本単元では、余市町の特産物である「りんご」づくりの道具の歴史について調べる活動を取り入れた。そのことで、それぞれの家族生活から、町全

体の暮らしの変化へと子どもたちの思考が広がるのではないかと考えたためである。

視点2 とのかかわり（言語活動を意図的計画的に設定した学習過程をとの指導のあり方の工夫）

りんごづくりの昔の道具の三段階の大きな変化において、どんな点が農家の方々にとって一番大きな変化だったのかを考えさせる。その際、「〇〇に変わった」という文の「〇〇」の部分を生める形でまとめさせることで、端的に自らの考えを表現させるようにしたい。また、考えをもたせるために、本時の導入でまとめた表を効果的に活用できるよう支援していきたい。

5. 単元目標

- 余市町の人々の生活について、古くから伝わる暮らしに関わる道具、それらを使っていた頃の暮らしの様子などを調べ、人々の生活の変化や人々の願いについて考えるようにする。
- 余市町の人々の生活について、余市町の発展に尽くした先人の具体的な事例を調べ、余市町の人々の生活の向上に尽くした先人のはたらきや苦心を考えるようにする。

6. 本単元の評価規準と評価計画







評価規準

関心・意欲・態度	○余市町の昔のまちの様子に関心をもち、意欲的に調べることを通して、余市町に対する誇りと愛情をもとうとする。
思考・判断	○昔の道具、地域の開発の事例から問題を見つけ、追及・解決し、生活の変化や人々の願いを考える。
技能・表現	○昔の道具や開発の様子を、観察・調査してしらべ、工夫しながら年表や新聞などに表現する。
知識・理解	○地域の人々の生活の変化がわかる。 ○地域の人々の生活の向上に尽くした先人のはたらきや苦心がわかる。

評価計画

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
○昔の道具を意欲的に観察・調査している①② ○三角袋づくりに意欲的に取り組んでいる④⑤ ○藤田さんの話をメモを取りながらしっかりと聞いている⑥⑦ ○ふたつの地図のちがいを意欲的に見つけようとしている⑩	○三角ぶくろを使っていた当時の苦労を考えることができる④⑤ ○機械の導入によって、虫除けの作業がどのように変化したかを考えることができる⑥⑦ ○りんごづくりの道具がどのように変化しているか考えることができる⑧ ○袋をかけずにりんごづくりをするという当時の人々の願いや思いを考えることができる⑨ ○ふたつの時代の地図を見比べ、余市町の変化についてとらえ、これからの学習活動の課題を見つけることができる⑪ ○余市川を埋め立てた理由を考えることができる⑫ ○海岸沿いから内陸側にも人々が移り住むようになった理由を考えることができる⑬	○調べた昔の道具を絵カードに表している①② ○りんごづくりの道具の歴史を表にまとめることができる⑧ ○3枚の図から余市川の流れの変化を読み取ることができる⑫ ○これまで学んだキーワードを余市町の年表と対応させて、自分たちの年表にまとめていく⑭～⑰	○三角袋を開発した理由と、その当時の袋かけの苦労について知る③ ○《三角ぶくろ》→《動力噴霧器》→《スピードスプレー》というりんごの虫除けの道具の移り変わりがわかる⑥⑦ ○宮本さんが日本ではじめてS・Sを導入したことがわかる⑨ ○宮本さんの苦労がわかる⑨

7. 学習計画【全17時間】※本時／17

時	学 習 内 容	○ 教師のかかわりと 【評価規準】
1 2	<p>1. まちに残っている、古い道具を調べよう</p> <p>① 学校の郷土資料室にはどんな道具があるかな？</p> <p>② 古い道具が使われていた頃の暮らしの様子を、家の人やお年寄りにたずねてしらべよう</p> <p>③ 調べたことを絵カードに表そう</p> <p>④ 絵カードの道具を時代順にならべてみよう</p>  	<p>○ 教師のかかわりと 【評価規準】</p> <p>○ 学校の郷土資料室にある道具の中から、子どもに注目してほしいものを取り上げて、簡単な解説をする (人工衛星型洗濯機・写真)</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昔の道具を意欲的に観察・調査している <p>【技能・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べた昔の道具を絵カードに表している
3	<p>2. りんごづくりの昔の道具を調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年表から余市のりんごづくりの歴史を調べよう。 「余市町は日本で最初にりんごを栽培した町なんだね」 <p>りんごづくりは、病害虫とのたたかひの歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ りんごに虫がつかないように昔はどんな道具を使っていたのかな？ <p>「袋をかけた」「薬をまいた」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ りんごの三角袋は余市町の高山さんが開発しました 	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三角袋を開発した理由と、その当時の袋かけの苦労について知る <p>○ 三角袋を開発した高山さんの工夫と袋かけの苦労を説明する</p>
4 5	<p>三角袋をつくってみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昔のりんご農家さんは、1日に1万枚くらい袋かけをしました。 ・ 三角袋をつくってみよう 	<p>○ 三角袋のつくりかたについて説明する (校区の農家さんに道具を借り、作り方を教えてもらう)</p>
4 5	 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三角袋づくりに意欲的に取り組んでいる <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三角ぶくろを使っていた当時の苦労を考えることができる
6 7	<p>りんごづくりの昔の道具について教えてもらおう</p> <p>りんごの虫よけの道具の歴史について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゲストティーチャー（藤田さん） 《三角ぶくろかけ》 ・ 昭和のはじめまで   <ul style="list-style-type: none"> ・ 10人くらいが「でめんさん」として農家に1ヶ月住み込みで作業した 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 藤田さんの話をメモを取りながらしっかりと聞いている <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 《三角ぶくろ》→《動力噴霧器》→《スピードプレーヤー》というりんごの虫除けの道具の移り変わりがわかる <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 機械の導入によって、虫除けの作業がどのように変化したかを考えることができる

- ・ 朝7時から夜7時まで働いた
- ・ 大変な作業

《動力噴霧器》

- ・ 昭和の30年代まで
- ・ 最初は人力の噴霧器
- ・ 4、5人で協力して作業
- ・ 途中からエンジンつき
- ・ 1人で1日で終わった



《スピードスプレーヤー》

- ・ 昭和30年代以降
- ・ 1人で2時間で終わる



- ・ 機械の導入によるメリットとデメリットを考えることができる

・ 機械が入ってきて便利になりました。
 ・ けれども人と人との助け合いが少なくなりました…

藤田さんにりんごのふくろのかけ方を教えてもらおう

りんごづくりの道具の変化について考えよう

《三角ふくろ》《動力噴霧器》《スピードスプレーヤー》

人手	10人	1人	1人
時間	1ヶ月	1日	2時間
その他	みんなで協力	薬の被害	薬の被害・高い費用 人と人との助け合いが少ない

8
本
時

9

スピードスプレーヤーの開発の歴史を知ろう

- ・ 宮本晋司さんがはじめて日本にS・S（スピードスプレーヤー）を輸入しました
- ・ 宮本さんの資料を読もう
 「宮本さんはアメリカに留学したんだね」
 「最初のS・Sはアメリカから輸入したんだね」
 「袋をかけずにりんごがとれたら」というのは農家の人々みんなの思いだったんだね
 「みんなで借金をして購入したんだね」
 - ・ 当時の金額で360万円
 - ・ いまだと、1650万円くらい！！
 - ・ 現在は、黒川小学校の近くの、川南鉄工さんでS・Sを開発しています



《宮本晋司さん》

【思考・判断】

- ・ りんごづくりの道具がどのように変化しているか考えることができる。

【技能・表現】

- ・ りんごづくりの道具の歴史を表にまとめることができる

【知識・理解】

- ・ 宮本さんが日本ではじめてS・Sを導入したことがわかる
- ・ 宮本さんの苦勞がわかる

【思考・判断】

- ・ 袋をかけずにりんごづくりをするという当時の人々の願いや思いを考えることができる

○ 余市町の広報の「日本のS・S第1号」の記事を提示する

○ 川南鉄工さんのS・Sのパフレットを提示する

10

昔の道具についてまとめよう

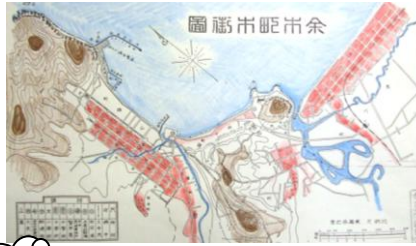
- ・ キーワードをもとに整理してみよう

1 1

3. まちを開く

ふたつの地図をくらべてみよう

- ・ ふたつの地図のちがいをを見つけよう
- 「川の流れが違うぞ」
- 「建物がたっている場所が広がっている」
- 「黒川小のあたりにはほとんど建物が無い」



《昭和10年ごろの地図》



《現在の地図》

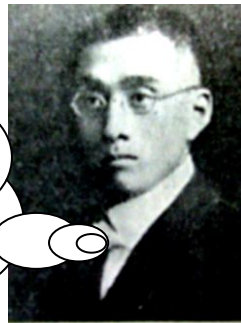
- ① 余市川の流れが大きく変わっているよね
- ② 町なみもかわっているよね

- ・ なぜこういう変化がおきたんだろう？

1 2

余市川の流れの変化について調べよう

- 《明治12年ごろの余市川の流れ》
- 《昭和12年ごろの余市川の流れ》
- 《昭和59年ごろの余市川の流れ》
- 「少しずつ川がまっすぐになってきている」
- 「昔は島があったんだね」
- 「黒川のあたりは、川の中だ」
 - ・ 川を埋め立てたんだね
 - ・ 川を埋め立てた理由はなんだろう？
- 「まっすぐじゃないと、洪水になりやすい」
- 「住める場所を増やしたんじゃないかな」
- ・ 余市川を埋め立てたのは、猪俣安造さんという人です

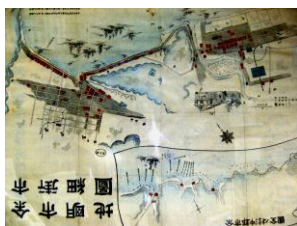


- ・ 全財産を埋め立て工事につぎこんだんだね
- ・ 黒川町に人が住めるようになったのはこの人のおかげなんだね

余市町の町なみの変化について考えよう

- ・ 明治時代の地図と、昭和10年代の地図をくらよう

1 3



《明治時代の地図》



《昭和10年代の地図》

【関心・意欲・態度】

- ・ ふたつの地図のちがいを意欲的に見つけようとしている

【思考判断】

- ・ ふたつの時代の地図を見比べ、余市町の変化についてとらえ、これからの学習活動の課題を見つけることができる。
 - 昭和10年ごろの地図と、現在の地図を提示する。その際にふたつの地図を重ねられるように、大きさが同じになるものを提示する
 - 子どもたちが見つけた発見を、川の変化と町なみの変化の支店で整理していく
 - 余市川の流れの変化を表す3枚の図を提示する

【技能・表現】

- ・ 3枚の図から余市川の流れの変化を読み取ることができる

【思考・判断】

- ・ 余市川を埋め立てた理由を考えることができる
 - 余市川の洪水の写真を提示する
 - 猪俣安造についての資料を提示する

【知識・理解】

- ・ 黒川地域を埋め立てたのが猪俣安造であることと、その苦心がわかる

【思考・判断】

- ・ 海岸沿いから内陸側にも人々が移り住むようになった理由を考えることができる
 - 明治時代の地図と、昭和10年代の地図を提示する
 - 余市町の地区ごとの人

<p>13</p> <p>(14 ～ 17)</p>	<p>「昔は海岸ぞいにしか家がなかったんだね」 「ニシン漁を営んでいたんだね」 「沢町の人口の割合が減っているね」 「山田町にも人が住むようになったんだね。りんごづくりがさかんになってきたんだね」</p> <ul style="list-style-type: none"> ニシンが取れなくなって、他の地区にも人々が移り住むようになったんだね <p>キーワードから学んだことを振り返ってみよう</p> <p>「ニシン漁」 「りんごづくり」 「海岸から内陸へ」 「黒川町の埋め立て」</p> <p>余市町の昔の暮らし新聞をつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ニシン漁の道具 りんごづくりの道具 	<p>口分布割合のグラフを提示する</p> <p>【技能・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで学んだキーワードを余市町の年表と対応させて、自分たちの年表にまとめていく ○ 総合学習とリンクさせて、新聞作りをおこなう
------------------------------------	---	--

8. 本時

(1) 本時について

前時までに子どもたちは、病虫害からりんごを守るための、昔のりんごづくりの道具にどのようなものがあったか、知識として理解する学習を行っている。第1段階は「三角ぶくろ」、第2段階は「かんちゅう竿」、第3段階は「スピードスプレーヤー」である。

本時では、①人手、②時間、③その他の観点で、それぞれの道具の特徴を表にまとめる活動を行う。このように表にまとめることで、りんごづくりの道具も、身のまわりの道具と同じように、短い時間で効率よく作業できるように変化してきていることをとらえさせたい。また、まとめた表を活用し、三角袋からかんちゅう竿、かんちゅう竿からスピードスプレーヤーの、それぞれの段階で、何が農家の人にとって大きな変化だったのかを考えさせたい。社会科において、「比較させること」は、子どもたちに思考させるきっかけとなる。三角ぶくろとかんちゅう竿をくらべると、「葉を使うようになった」という大きな変化がある。かんちゅう竿とスピードスプレーヤーをくらべると「機械化されて作業が早くなった」という、こちらも大きな変化がある。こうしたそれぞれの段階の変化をとらえさせたうえで、りんごづくりの道具全体としてどのように変化してきているのかを考えさせたい。その際、プラスの変化だけでなく、マイナス面があることにも目を向けさせる必要があると考える。

(2) 本時の目標

【思考・判断】りんごづくりの道具がどのように変化しているか考えることができる。

【技能・表現】りんごづくりの道具の歴史を表にまとめることができる

(3) 本時の展開

子どもの活動・学習内容	◆指導 と 【評価】
<p>○前時のふり返し</p>  <p>三角ぶくろ かんちゅうざお スピードスプレーヤー</p>	<p>◆前時までに学習した、害虫からりんごを守るための道具について、写真でふり返させる。</p> <p>◆前時のノートをふり返しながらか、表にまとめさせることで、前時までに学んだことを整理させ、本時の課題</p>

課題：りんごづくりの道具の変化について考えよう

自力解決

	《三角ぶくろ》	《動力噴霧器》	《スピードスプレー》
人手	10人	1人	1人
時間	1ヶ月	1日	2時間
その他	みんなで協力	薬の被害	薬の被害・高い費用 人と人の助け合いが少ない

A 三角ぶくろからかんちゅうざお、B かんちゅうざおからスピードスプレー、どちらの変化が農家の人にとって大きな変化だったと思いますか？

交流

Aの根拠

- ・ 薬を使うようになった。
- ・ 作業時間が短くなった。

Bの根拠

- ・ ほとんど手を使わなくてすむ。
- ・ ものすごく短い時間で終わる。

全体交流の話合いのポイント

- ・ AとBそれぞれの変化の共通点と相違点。
- ・ よい変化ばかりなのか。



・ 機械が入ってきて便利になりましたけれども、人と人の助け合いが少なくなりました…

りんごを害虫からまもるための道具はどのように変化しているといえるでしょうか。「りんごを害虫からまもる道具は〇〇に変わってきた。」とまとめてみましょう。

まとめ りんごを害虫からまもる道具は、短い時間で作業できるように変わってきた。

解決に必要な知識を確認する。

【技能・表現】

- ・ りんごづくりの道具の歴史を表にまとめることができる

- ◆ 自分がAとBのどちらが農家の人にとって大きな変化だったと考えるかネームプレートを貼らせる。

言語活動1

考えた根拠を小集団交流、全体交流で話し合わせる。互いの意見の共通点、相違点をとらえさせる。

言語活動2

交流を通してまとめた考えを、ノートに簡潔な文章でまとめさせる。

【思考・判断】

- ・ りんごづくりの道具がどのように変化しているか考えることができる。

- ◆ まとめを声に出して読ませる。

(4) 板書計画

りんごづくりの昔の道具

りんごづくりの道具の変化について考えよう

農家の人にとってどちらが大きな変化？

	三角ぶくろ	かんちゅうざお	スピードスプレー
人数	10人	1人	1人
日数・時間	1ヶ月	1日	1~2時間
その他	90年前 三角ぶくろ 1日5000~6000 1日1万3千	道具を使う 変化せぬ品 モーター・ホス 液とく 薬	今使っている カチーとカチー 2~3分の物やわ 農薬 車

三角ぶくろ → A → かんちゅうざお → B → スピードスプレー

手作業でなくなった。モーター → 電気 → 時間が短く、1人1万3千(薬)が農薬。また、かんちゅうざおは、薬を散布する。電気が入ると、動力がハンドルやタイヤに伝わり、時間は早くなる。

時代とともに、手作業 → 電気 → ハンディで使えやすくなり、薬も短時間で変化している。

9. 実践を終えて

(1) 視点1に関わって

- ・前時までに、りんご作りの害虫駆除の道具にはどのようなものがあり、どのように使うのかという基本的な知識については学習してきた。本時の導入段階で、その基礎的な知識を表にまとめるという活動を行うことにより、効果的な既習の振り返りと、本時の課題解決に必要な知識の確認ができたのではないかと考える。問題解決学習を行う際に、どうしても思考させるために必要な情報が子どもにしっかりと身についているかどうかは課題となる場合が多い。子どもに何かを考えさせるためには、考えるための土台となる知識をしっかりと教えることは大切にしていかなければならないとあらためて確認することができた。
- ・本時では、三角袋からかんちゅうざおへの変化をA、かんちゅうざおからスピードスプレーへの変化をBとして、子ども達にどちらが農家の人にとって大きな変化かを考えさせた。2択にしてしまうことについては、批判的なとらえ方もあるだろうが、本時の子ども達の思考の様子を見ると、今回についてはある程度効果があったのではないかと考える。社会科における問題解決学習では、「自己選択」の場を設けることも効果的であると考えられる。
- ・今回の課題では、どうしても「農家の人たちの思い」に迫るところまではむずかしかったのではないかと考える。そうした意味では、生産効率をアップさせる農機具の発展の面だけではなく、それがもたらすマイナス面にも目を向けさせることが大切なのではないかと考える。

(2) 視点2に関わって

- ・表にまとめたり、考えをノートに書いたり、発表したり、まとめの言葉を穴埋め式するなど、社会的な言語活動は多く取り入れられた授業だったのではないかと考える。ただ、発表の際に、子ども達それぞれの発表が、他の子どもの発表とつながっているということも、もう少し感じさせたい。そのためには、子どもの意見を板書するだけでなく、それを教師が結び付けていくような手立てが必要だと考える。
- ・4年生という発達段階を考えると、まとめの文言については、穴埋め式にする必要があるか検討が必要である。本時については、自力解決段階で子ども達もそれぞれ自分の考えを持つことができていたように見える。だとすれば、まとめの言葉はそれぞれの子ども達に自由に考えさせてよかったのではないかと考える。仮にそうしたとすれば、道具の発展のマイナス面にも目を向けた意見が出てきたかもしれない。
- ・3、4年生の社会科の地域教材は、資料収集など教材化に関わる課題が多い。同じ地域の教師同士が、共通の素材を共有できるような環境整備や、実際の授業に活用できるような副読本の作成に取り組んでいくことが望ましい。

